



第55号
【年3回発行】
日置地区
社会教育振興会
〈事務局・編集〉
鹿児島教育事務所

女性の知恵と実践で ～強い絆づくりを～

ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び
組織・教育・食料・環境学習大会
日置地区地域女性団体連絡協議会
令和5年8月29日(火)、日置市東市来文化
交流センターにて、本大会が約90人参加を得
て、盛大に開催されました(写真)。

保健・福祉学習大会

県民総合保健センター健康支援課
二宮久美子技術主査保健師の講演が
ありました(写真)。



「あなたらしく生きるための健康術」ハピネスライフをめざして」という演題で健康寿命を伸ばす秘訣や日常の過ごし方について教えていただきました。今日からできるがんばらない健康法「一読・十笑・百吸・千字・万歩」を紹介されました。さらに、元気に若々しい健康づくりのための「筋膜ケア」についても教えていただきました。凝り固まった体をほぐし、コリなどの不調を解消し、体全体の機能を高める運動を全員で行いました。

組織・教育・食料・環境学習大会

★日吉地域女性連絡協議会副会長
勝田久子さん
高齢者と子供の異世代間交流の場として「子ども食堂」を立ち上げ、日吉地域の活性化を図っているという発表でした。遅々とした歩みではありますが、皆で試行錯誤し、何とか形ができてきたという話にスタッフの方々の苦勞を思うことでした。



子供や高齢者、地域のひととの交流により地域の絆が深まっていることが伺え、多くの方が頷いていました。
★いちき串木野市女性団体連絡協議会会計
小原文子さん
持続可能な女性連活動を通して絆を深め組織の拡大を図っているという発表でした。これまで本市の女性連は県婦人会長や全国地婦連副会長を歴任された南ツギエ氏をはじめ多

くの良き指導者を輩出しており、また、会員も県内の約3割を占めるなど輝かしい伝統と実績があります。



シンポジウムでの趣向を凝らした発表

地域力 × 女性力 = 無限大の未来
(内岡府男女共同参画局)

しかし、本市女性連も活動のマンネリ化、急激な少子高齢化・人口減などの課題は避けられず、解決のために改革方針に基づいた組織的な取組や若手を育てる新たな支援を行っていること等に参加者は熱心に聞き入っていました。いつまでも地域づくりの輪を広げ、お互いに支え合い、誰一人取り残さない地域社会を今後も継続して取り組まれることを願っています。

第75回九州地区地域婦人大会
全国女性団体連絡協議会九州ブロック会議
11月15日(水)～16日(木)、城山ホテルにて九州各県から約5000人が参加して盛大に開催されました。
シンポジウムでは第1分科会で、いちきの串木野市地域女性連の小原文子さんが、第2分科会で伊集院町地域女性連の南田ヤエ子さんが発表されました。(分科会発表者3名のうち2名が本地区女性連でした)

日和下駄

日置市・大垣市交流事業
日置市吹上支所教育振興課
課長 山下和彦



西軍敗戦が濃厚な中、島津義弘を薩摩に帰還させるため、命を張って追っ手を食い止めたのが甥の島津豊久です。その墓を400年以上の昔から、代々守り継いでこられた縁で平成8年、大垣市上石津地域との交流が始まりました。
平成11年からは、青少年交流団が派遣と受入れを交互に行い交流を深めてきました。コロナ禍もあり中止の年が続きましたが、この夏、4年ぶりに小中学生9名の団員を3泊4日の日程で受け入れました。
私自身、令和元年に小中学生8名の団員とともに大垣市を訪れ、訪問先では地元の方々の心温まるおもてなしや大垣市の子供たちとの思い出に残る交流を記憶しています。今回の団員たちも、吹上ソフトボールスポーツ少年団員との交流を深め、また、島津家ゆかりの地を巡りながら、先人たちの偉業を肌で感じ、歴史によって織り成された両市のつながりを交流事業を通して、改めて認識することができました。
来年は、大垣市へ派遣事業の年となります。これからもこの日置市・大垣市交流事業が連続と続きますよう関係機関と連携を深め、両市の交流と友情の輪がさらに深まることを期待します。

わたしのコラム道 — 天声人語を書きながら考えたこと

日置地区PTA正副会長等研修会

7月1日(土)、日置市中央公民館において、本研修会が行われ、地区内の各学校のPTA正副会長、教職員等計141名の参加がありました。

講師の有田哲文氏(写真)は、朝日新聞東京本社文化部記者・論説委員で、「天声人語」を2016年から6年半にわたり、執筆されています。また、8・6水害の頃、鹿児島支局に勤務されていたそうです。

演題 「わたしのコラム道」



「わたしのコラム道」
本社文化部記者・論説委員 有田哲文氏

「天声人語を書いてくれ」と上司から打診された顔面蒼白となったエピソード。猛烈なプレッシャーの中で、日々の出来事を様々な角度から捉え、きっちり

「自分が本当に思っていることを書く」、そのことを信条とし、地道に取材を積み重ね、幅広く書物を読み、そのつど「言葉の部品」を手づくりしていく職人的仕事に、「コラム道」の奥深さを学ぶことでした。

参加者の感想からは、「産みの苦しみに堪え、何としてでもコラムを仕上げる新聞記者『魂』を凄いと感じました」と、締切時間と己との日々の闘いに感銘を受けた感想や、「読書がとても大事である」と何回も話されました。インターネットの世界も広いが、本の世界はもっと広く深い。この言葉は特に印象に残りました。子供と一緒に図書館に通い、本と親しみたいと思いました」等

読書の重要性を再認識した感想もありました。今後のPTA活動にも生かしていただければと思います。



講演の様子

「天声人語」とは朝日新聞の朝刊一面の出来事や出来度から捉え、感じ取れる価値を603文字に凝縮しています。ちなみに、天声人語とは「天に声あり、人をして語らしむ」の意だそうです。

集う 学ぶ 結ぶ 日置地区公民館経営研究会

10月23日(月)、日置市中央公民館において、本研究会を実施しました。公民館・行政関係者43名が事例発表・講演を通して研修を深めました。

表 事例

住吉地区の一年
地域の伝統・特性を活かして
住吉地区公民館 成田浩 館長

「住んでよし 住吉」を標榜する日置市住吉地区公民館が、地域に密着した取組を発表されました。月ごとの具体的な取組を詳しく紹介していただきました。特に、特色ある取組として、



発表する成田館長

「花火デザインコンテスト」や「住民と子供との交流」「伝統芸能継承活動」等とても参考になる話をしていただきました。最後に「地域住民は皆ボランティア精神に溢れており、何をすることもたいへん協力的である」と話され、参加者は一同に頷いていました。これは地域に脈々と引き継がれた風土と、そして館長ご自身の人柄ではないかと感じました。

現代社会における社会教育の意義と可能性「住民の自治を基盤とした地域づくりに向けて」
鹿児島大学法文学部 酒井 佑輔 准教授

講演では参加者の実態を踏まえ二市の素晴らしい取組も紹介しながら

ら、意見交換も取り入れていただきました。これは、単に話を聞いて終わりでなく自分



意見交換の様子

「酒井先生の思いを感じました。歴史的な背景を踏まえた公民館の重要性や孤立を防ぐ等、課題解決に向けた様々な方法を話していただき、たいへん勉強になりました。

出席者からは「地域の人喜んで参加する工夫があり参考になった」「地域の方々が生き生きと生活している様子や昔の田舎の良さ残っていて素晴らしい」「地域の課題や悩み事の解決につながるヒントを得ることができた」など多数の意見がありました。

今回の研究会で学んだことを自分の市や公民館の実態に合わせてながら公民館経営等に生かして欲しいと思っていました。新たなことにもチャレンジしていただければありがたいです。

吐噶喇への誘い ★★「いきいき大学」で小旅行★★

いちき串木野市教育委員会社会教育課では、高齢者を対象に13地区で年11回の市民講座「いきいき大学」を開催しています。

今年新たに始まった講座の一つ、日置市教育委員会社会教育指導員の有村孝一氏による「吐噶喇への誘い」を紹介します。

この講座では、有村孝一氏がかつて十島村教育委員会在任中に巡ったトカラの島々の魅力を、映像や写真を使いながら、やさしい語り口で話をされます。

- ・ 口之島のタモトユリ
- ・ 中之島のヤルセ灯台
- ・ 諏訪之瀬島のアラセツ行事
- ・ 平島の千年ガジュマル
- ・ 悪石島の一週間続く盆踊り
- ・ 小宝島の隆起サンゴ礁
- ・ 宝島の宝島港の壁画等



タモトユリ



悪石島のボゼ

なかなか訪れることのない島々の風景や話に引き込まれていきます。

いちき串木野市教育委員会「わが町から」

また、テレビ等でもあまり紹介されることがない興味深い話に感嘆の声が上がっています。

聴講生の中には、話を聞いてトカラの島々を訪れてみたいと思う人もいます。

一方で、旅行に行くことが難しくなってきた(？)高齢者の方には聴くだけでもためになる有意義な講座になっています。

この好評を博している「吐噶喇への誘い」講座は、今年度11の会場で開催される予定です。



有人7島を結ぶ「としま2」



吐噶喇を熱く語る有村孝一氏

★ 有村氏は若い頃、冠岳小学校に勤務されていたことがあり、6月に冠岳地区で開かれた講座には、いつもの倍の出席者が集まり、大変盛り上がりしました。最後には記念撮影もありました。

次代を担う青少年の育成！ 日置市リーダー研修事業 「多賀町・日置市交流」

本事業は、関ヶ原合戦で敵軍を中央突破した島津義弘の偉業をたどる関ヶ原戦跡踏破隊と滋賀県多賀町との交流を縁に、昭和59年、多賀町と旧伊集院町との間に兄弟都市盟約が結ばれたことから始まっています。

7月25日(火)～7月27日(木)に、次代を担う心豊かであらう青少年の育成を図ることを目的とした日置市リーダー研修事業「多賀町・日置市交流」を実施しました。多賀町の小学生8名、本市内の小中学生8名、多賀町・本市引率職員8名の計24名が参加しました。

1日目

- 日置市中央公民館にて受入れ式
- 《少し緊張の様子》
- 日置市内史跡等見学
- 宿泊先のせつべとべ日吉館での歓迎交流会

2日目

- 美山陶遊館にて薩摩焼陶芸体験
- 吹上浜砂丘体験
- 《水平線が見える東シナ海、砂浜の貝殻に感動》
- 知覧特攻平和会館(南九州市)での平和学習



薩摩焼陶芸体験



「島津義弘像」等史跡見学

生徒の声「特攻」とは何なのかよく分かっていませんでしたが、語り部の話を聞くことで、詳しく知ることができました。そして、戦争は、とても悲惨で失う物の方が多く、2度とおきてはならないと思いました。

3日目 受入れ研修終了式

両市町の代表団員から、みんなの事を考えて行動することができたことや日置市について多くのことを学べたことなどの感想がありました。最後に多賀町の団員代表からは、今回の受入れ研修にあたり、様々な場面で日置市のおもてなしが、私たちの笑顔や、心に残る一生の思い出になったと感じの言葉を述べられました。



吹上浜砂丘にて

今回の研修は、受入れ研修です。滋賀県多賀町への派遣研修は、12月23日(土)～12月25日(月)の予定です。今回、両市町の児童生徒の交流が深められたことはもちろん大きな成果ですが、日置市の自然・歴史等について改めて良さを感じたこと、そして、まだまだ知らなかった日置市について再度、学んでいきたいと感想を述べている児童生徒も多く、これも大きな成果の一つと言えます。

日置市教育委員会「わが町から」

十島村教育委員会くわが町からく

三島村教育委員会くわが町からく

平島の盆踊り

宮鶴女、小踊り、平島子ども会

「カーン、カーン、カーン・カーン」
鳴り響く鐘の音。大庭(オオニワ)から聞こえる歌。平島のお盆(ミヤジジヨ)の始まりを告げる鐘や歌の音が聞こえてきました。

平島の盆踊りは旧暦の7月7日から16日の10日間行われ、先祖代々伝わる踊りで「宮鶴女(みやづるじよ)」と「小踊り」の二つに分かれています。宮鶴女は41番まである歌に合わせてオオニワと呼ばれる広場を参加者で円を描きながら回る伝統行事です。小踊りは6番まであり、手ぬぐいや扇子、ドッシン俵を使ってお寺やお墓、神社など6か所で踊ります。宮鶴女は10日間踊り、小踊りは最後の3日間踊ります。



今年8月29日からの小踊りに幼児・児童生徒、教職員も参加し、盆踊りを盛り上げました(写真)。

平島子ども会は、幼児・小・中学生合わせて14名の小さな子ども会ですが、島の行事には育成会や先生方と参加します。新型コロナウイルス感染症のため自粛していた行事が今年数年ぶりに復活し行われています。今後も子供たち、学

3島を笑顔でつないだ炬火リレー

燃える感動を与えてくれた鹿児島国体・全国障害者スポーツ大会。その開催機運を高めようと実施された炬火リレー。離島コースのスタートは三島村でした。

7月21日、5歳から83歳までの幅広い年齢のランナーの参加の下、フェリー「みしま」の各島での寄港時間を利用して3つの島をリレーしました。最初の竹島では7人のランナーが岸壁に設けられた約60mのコースを往復。最初の走者となった三島竹島学園の生徒は、「リレーの最初を務めるのは一生の記念になった」と楽しそうに話しました。次の硫黄島では、三島硫黄島学園の児童生徒がジャンベの演奏と踊りで雰囲気盛り上げる中、村民が海を越えて来た炬火を迎えました。そして、駐在所の警察官の先導で35人が炬火をつなぎました(写真)。



最後の黒島では、三島大里・片泊学園の全校児童生徒など58人が参加。大里学園の生徒は、「貴重な体験ができた。国体が鹿児島で開催されるのはうれしい」と笑顔で話しました。こうして、三島村ならではの演出も交え、多くの笑顔とともにつなげた炬火は開会式で炬火台に点火され、大会期間中、選手を見守りました。

鹿児島地域文化財保護審議会委員及び文化財行政担当者等研修会

7月5日(水)、日置市中央公民館において、鹿児島市、日置市、いちき串木野市、三島村の関係者34名の参加を得て、開催されました。

- 事例発表
令和5年5月に県指定を受けた「日置市吹上町の大汝牟遅神社の『千本楠』」について
○日置市教育委員会文化係 瀧川哲哉 主査
- 各市村取組発表・質疑応答
文化財保護の現状と課題について
- 県文化財保護行政の概要について
県教育庁文化財課
○切通雅子 主任文化財主事兼係長
○馬籠亮道 文化財主事兼専門員
- 研修視察



研修会の様子

研修視察は「一字治城跡(伊集院町)」の予定でしたが、荒天のため移動せずに研修会を実施しました。
日置市教育委員会文化係の下小牧潤主任から専門的な資料をもとに詳細な説明がありました。現地には行けませんでしたが、地区の歴史を知る有意義な研修になりました。

祝 受賞 おめでとうございます

9月15日(金)伊集院町中央公民館において、日置地区社会教育振興会第2回理事会在が開催されました(写真)。



2市から地域社会の振興に大きく貢献した団体・人について推薦があり、様々な観点から審議し、受賞者が次のように決定しました。《表彰は日置地区生涯学習推進大会(11月25日)にて行われました。》

日置地区社会教育優良個人・団体表彰

日置市	家村 厚子	24年間にわたる中央公民館講座革工芸講座の講師
	下野 衛	歴史講座の講師、日置市観光ガイド、吉利地区公民館長を歴任
	みつばち文庫	図書館や幼稚園等で読み聞かせ活動を積極的に展開
いちき串木野市	塩屋 かよ子	女性の活動推進に貢献、現在市女性連会長・県女性連副会長
	濱田 俊浩	定年後、22年間社会教育行政に従事、現在市文化協会会長
	川崎 誠	国指定「市来の七夕踊り」の庭割(踊りの師匠)として保存継承に尽力
	松永 保男	国指定「市来の七夕踊り」の庭割(踊りの師匠)として保存継承に尽力
	羽島史跡顕彰会	薩摩藩英国留学生を顕彰する黎明祭など地区の歴史と文化の向上に寄与

編集後記

鹿児島国体・全国障害者スポーツ大会が盛大に開催された。地元紙に3つの立場で成り立つとあった。地域でも同じことが言えるのではないか。地域活性化の取組を「支える」多くの人たちの存在を忘れてはなるまい。(事務局 田中)